

授業や課外活動の
プログラム企画

地域の中での
体験の場

地域の
**ゲスト
ティーチャー**



地域との連携によりはぐくむ

ともに生きる**力**

しゃきよう
社協は学校とともに、子どもの**学び**や**育ち**を支える
「福祉教育」を推進しています！

社会福祉法人 全国社会福祉協議会



学校と地域のつなぎ役として

～福祉教育における社協^{しゃきょう}の機能・強み～

社協のいちばんの“ウリ”は、地域のさまざまな人材や社会資源とのつながりをもっていること。

社協は地域福祉をすすめていく組織です。そのために福祉教育を大切に、学校を含めた地域のさまざまな場面ですめられる福祉教育を推進・支援しています。学校ですめられる福祉教育に対しては、プログラムの企画段階からの相談、地域の社会資源や人材をつなぐコーディネートを担当しており、地域のさまざまな資源を駆使したプログラム提案をすることができます。

子どもたちの「学びたい、活動したい」という気持ちを、具体的な活動につなげます。

学校の授業や行事の範囲内ではおさまらない、子どもたちの「もっと学びたい・もっと活動したい」という気持ちを受け止める地域の受け皿を用意できることも強みです。社協には、そのような子どもたちの気持ちを具体的な活動につなげていく応援ができます。子どもたちの「ともに生きる力」をはぐくむためには、学校・家庭・地域が連携しつつ、地域全体で取り組むことが不可欠ですが、社協は地域のつなぎ役を担うことができます。

地域の中で「ともに生きる力」をはぐくむ福祉教育

地域の中にある学びの場

福祉教育は、身の回りの人々や地域との関わりをとおして、そこにどのような福祉課題があるかを学び、その課題を解決する方法を考え、解決のために行動する力を養うことを目的としています。

今の子どもたちは地域の大人とかかわる機会そのものが少なくなっています。身近な

地域に暮らす、障害のある人や高齢者を含めたさまざまな人々と関わり、学ぶことを通して、子どもたちは**コミュニケーションの力**を高め、多様な生き方にふれ、**命の大切さ**や**思いやりの心**、相手を理解しようとする豊かな心をしっかりととはぐくみます。

福祉教育を通してはぐくまれる力

また、出会いや関わりを通して、**自分と違う立場の人と認め合い、人の気持ちに共感できる力**や**自分の考えを表現する力**、考えを共有し**実行につなげていく力**等の「**ともに生きる力**」をつけていきます。さらに子

どもたちが地域の中で交流や活動することで地域の人から感謝されたり、大切に思われていることを実感でき、**自己肯定感**や**自己有用感**を積み重ねていくことができます。

子どもが変わる！大人が変わる！地域が変わる！

こうしたことは子どもたち一人ひとりの「学び」や「育ち」につながるだけでなく、クラスや地域の中においても、お互いの違いを認め合い排除しない仲間づくりへとつながって

いきます。

子どもたちが学びを通して変わることで、大人や地域もともに学び、変わることができると考えています。



学校教育の中で福祉教育プログラムの活用を



新学習指導要領においては「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の知・徳・体を育て、「生きる力」をはぐくむことが掲げられています。協調し人を思いやる心などの豊かな人間性を築いていくためにも「ともに生きる力」をはぐくむ福祉教育のプログラムは有効であると考えます。

社協が1970年代からすすめている**福祉教育のとりくみは、まさしくこの「生きる力」に通ずるものであり、そのためのノウハウと人や社会資源のコーディネート力を持っています。**

子どもたちの学びを地域とともに作っていくために、ぜひ社協をご活用ください。



地域のゲストティーチャー

1

導入

例

「ふくして何?」「あの施設ってどんな施設?」
 「目が見えないってどんなこと?」「聞こえないってどんなこと?」
 「自分たちの町を調べよう」



ふくして、
みんなに関係が
あることなんだ

初めは緊張したけど、
優しく話してくれました



2

ゲストティーチャーとの出会い・交流・体験

例

「町に住む、歴史博士(お年寄り)の話を聞こう!」
 「便利なグッズを見せてもらおう」
 「命の大切さを赤ちゃんや妊婦さんから教わろう」「一緒に給食タイム!」
 「一緒にゲームやスポーツ」「〇〇施設を訪問しよう」
 「地域の事業に参加しよう」「移動するときはどうしてるのかな?」
 「コミュニケーション手段を知ろう」「仕事や趣味について聞こう」



いっしょにおやつを
作って食べたよ。
とっても楽しかった!



車いす利用者が
車を運転してきた!
目が見えないはずなのに
料理してる!!

社会福祉協議会ができること

プログラムの企画

- 学校・学年に合った企画の提案
- 学校全体での企画・授業外での企画の提案

地域のゲストティーチャーの調整

例 車を運転する車いす利用者の方・楽器演奏や料理が趣味の視覚障害の方・町の歴史を知っている高齢者・町に暮らす知的障害や精神障害のある方・福祉施設・ボランティアグループ・子育てサークル・当事者グループ・自治会・民生委員・大学生講師 etc

活動先・訪問先などの調整

学んだことの発表の場づくり

- 学年発表会や文化祭などでの発表の場
- 地域のサロンなどでの、地域住民への発表の場

次の展開への提案・つなぎ

- 子どもたちが考えたことの実現の場づくり

学校だけで、先生だけで抱え込まず、ぜひ社協にご相談ください。

による、授業の展開例

3

活動のふりかえり・共有

例

自分との「違い」や「同じ」はどんなところだろう。
子どもたちが感じてきたこと、考えたことを報告し合う。
外にむけて発表する。
自分たちにできることはないか、みんなで意見を出し合う。

施設の人に
ありがとうって
言ってもらえて
うれしかった。



目が見えないと何も
できないのかと思ってたけど、
うちのお母さんと変わらない、
とっても明るくて
元気な人だった。



Aさんはすごく物知りで、
おもしろい人だった。でも
町の中では苦勞することも
多いんだって。



また会いたい！
もっと
お話したい！



4

発展・次の行動へ

例

地域へ飛び出そう！地域事業や施設のボランティア活動に参加
Aさんにとって暮らしやすい町って？町にむかって呼びかけよう！
(ポスター・寸劇・紙芝居・展示物)
継続的に関わろう。
(クラブ活動や、お便り訪問、学校行事へのお誘い)
〇〇について、もっと調べてみよう。



もっとバリアフリーな
町になってほしいな。



ボクたちにも何か
手伝えることは
ないかな…



教科の応用としても…

国語：読み聞かせの会・地域の昔話を語る人・盲導犬ユーザーの紹介。点字にふれる授業。

社会：伝統行事や外国の文化を話す人の紹介。

生活：まち探検やバリアフリー点検と関連づけた授業。

家庭：郷土料理や外国の料理を教えてくれる人の紹介。

道徳：高齢者との交流、公園や公共物の清掃活動と関連づけた授業。

算数：指文字にふれる授業。

などなど





社会福祉協議会しゃききょう(以下、社協)とは



社協は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。昭和26年(1951年)に制定された社会福祉事業法(現在の「社会福祉法」)に基づき、設置されています。

社会福祉協議会は、それぞれの都道府県・指定都市、市区町村で、地域に暮らす皆様のほか、民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健・医療・教育などの関係機関の参加・協力のもと、地域の人びとが住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざしたさまざまな活動をおこなっています。

たとえば、ボランティアや市民活動の支援、各種の福祉サービスや相談活動、共同募金運動への協力など、全国的な取り組みから地域の特性に応じ

た活動まで、さまざまな場面で地域の福祉増進に取り組んでいます。

社協には、地域で活動する「市区町村社協」とそれを支援する「都道府県・指定都市社協」、全国的な連絡調整を行う「全社協」があり、お互いに連携しあっています。

社協の主な事業(例)

- ボランティアコーディネート／サロン活動／高齢者・障害者・児童などへのホームヘルプやデイサービスなどの福祉サービス
- 福祉に関する講座・研修会・イベント
- 災害ボランティア活動の調整
- 低所得者や虐待・成年後見など各種相談事業
- 赤い羽根共同募金運動への協力

社協と学校が つながる もうひとつの メリット

学校とのつながりは福祉教育だけとは限りません。たとえば、障害・病気・低所得・虐待・介護など、子どもたち自身やその家族の抱える福祉課題・生活課題について、社協が相談にのり、地域の人たちをはじめとして、保健・医療・福祉の専門機関や行政とのつながりを活かして公的サービスやインフォーマルサービスとつなぐことで解決に結びつけることもできます。

市区町村社協名

まず、社協に
電話してみて
ください!!